

Topic

COLUMN: 先生紹介 ▶ 岡本 泰行 (今福・諸口教室)



誠に迷惑をおかけしました。 結婚し戻ってきました。

昨年は大変ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。特に今津教室の方達には多大なるご迷惑をおかけして申し訳ござ

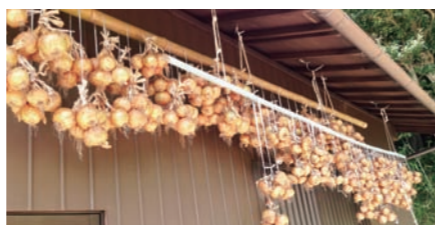
いませんでした。昨年までお世話になっておりました岡本です。家庭の事情や諸問題もあり一度カイチを退きました。が、昨年の夏ごろ、家庭の事情や諸問題が良い方向に進展することになり、塾長(ジュニア先生)に相談しましたところ、またお世話になることになりました。またカイチで働くことができてうれしく思います。また、一からしっかり頑張りますのでよろしくお願いたします。

昨年は…と思い返してみますと、「よく畑仕事をしたな」と思います。今まで仕事にかまけてばかりで、それを理由にぼったかしにしていたので。今年からは、ちょくちょくと畑仕事もしていこうかなと思います。小さいころから田舎には良く行っており、そこに畑があり、そこで採れる野菜が当た

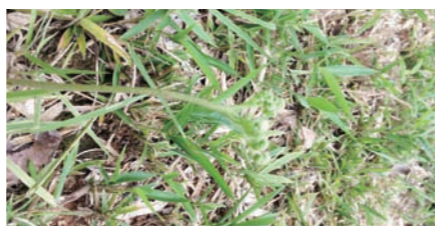
り前にある状態でした。しかし、いざ自分が大人になり、畑の世話をしていくのはとても大変なことだと感じました。普段何気なく、当たり前食べているものに感謝ですね。

プライベートなことでは、ついこの前、結婚をしました。10年以上前に勤めていた会社の同期とのつながりで知り合いました。その同期とは、以前勤めていた会社を辞めたあとは、ほとんど交流がなかったのですが、なんとなく縁を感じるような出来事になりました。10年以上前に勤めていた当時からは予想もしなかったことです。まさかですね。人と人のつながり・縁は大切にしなければならぬと思います。

これから大きくなっていく皆さんにはこういった縁を大切にしていって欲しいと思います。普段は何気なく当たり前のように過ごしている日常、今の友達や、まわりの人達との出会いを大切にしてください。これから大きくなっていく欲しいと思います。またこれから頑張っていきますのでよろしくお願いたします。



▲玉ねぎ…たくさん採れましたがまだまだです。



▲わらび…道などで見つけると季節の変わり目が分かりますね。



▲なす…夏野菜といえば「なす」。今年は焼きなすにして食べたいです。

川西の ちょっと イイ話

TEACHER'S VOICE 川西 久志 (今福教室)

「粘り強い努力で志望大合格 日々の質問で苦手教科を得意教科へ」

少しずつ暖かくなってきました。さて、今回は今福の新戦力である永野先生の記事を書かせていただきます。彼女は小学校2年生からカイチに珠算生として入会し、中学3年生でいったん卒業しましたが、高校の勉強がついていけるかが不安になり、カイチに高校個別生として戻ってきてくれました。そんな彼女のエピソードを一つご紹介いたします。

彼女は高校生になり、いつもの3時間自習や9時間自習に参加していました。9時間自習を自主的

に2、3回参加するなど、さすが高校生と思えるほどの勉強量でしたが、彼女は数学がとにかく苦手でした。しかし、テストの度に私に質問を根気よくしてくるので、私もそれに答えていました。かれこれ3年間私に質問を繰り返していたわけですが、いつの間にか数学の評定が5になっていたそうです。私自身、彼女の変化に気づいたのが高校2年生の途中くらいでした。この問題の答えがなぜそうなるか?が理屈で分かり始めたのです。粘り強く努力を

続けると必ず結果が出ることの好例だと思います。

彼女はその調子で勉強を続けた結果、立命館大学の合格を勝ち取ることができました。今苦手科目で悩んでいる皆さんも、このエピソードを参考に粘り強く質問する大事さを理解していただけたいと思います。時間はかかりますが苦手科目を得意科目にする方法はあるということです。先生達を捕まえ、どんどん質問していきましょう。



▲永野さん、今は先生としてがんばっています!

カイチからのお知らせ

- 4月13日(金)～4月27日(金)で中学英検講座・レベル別受験講座を実施します。
- 4月22日(日) は春の遠足で、大仙古墳に行きます。当日は英語やそろばん、力自慢など生徒一人一人の特技を活かしたオリエンテーリングや、大縄・ドッチボール大会も実施します。是非、ご参加ください。
- 4月28日(土)よりトーキングキッズ英検直前対策講座をスタートします。トーキングキッズ生以外の方も、英検に挑戦したい方は是非ご参加ください。詳しくはお知らせを配布します。
- 小学診断テストを5月2日(水)に実施します。

生徒と保護者と先生の共育ニュースレター

Growing

April 2018
Vol. 68
毎月10日発行

【本 部】
城東区今福西2-1-8モデラトWASHIMI 201
TEL.06-6939-0008

【今福教室】 城東区今福西 2-9-20 TEL.06-6934-4662	【今福第2教室】 城東区今福西 2-16-8 TEL.06-6931-2000
【諸口教室】 鶴見区諸口 4-14-9-1F TEL.06-6912-3984	【開目教室】 城東区開目 4-6-17-2F・3F TEL.06-6934-8117
【今津教室】 鶴見区今津南 1-6-2-1F TEL.06-6167-9722	【古市教室】 城東区古市 3-21-8 TEL.06-6931-0467



高木 秀章 (塾長)

受験生の皆さん、保護者の皆様 合格おめでとうございます。 そして、お疲れ様でした。



日増しに温かくなり春の訪れを感じる今日この頃ですが、教室では新しい出会いと別れの季節でもあります。教室では、今年も200名近くの元気な新入生を迎え、まさに新芽が勢いよく伸びようとする勢いと生命力を感じます。その一方で、カイチを卒業していく受験生達の進路を決める公立合格発表が3月20日にありました。

今年度の結果は、国立に1名、北野・高津・四條畷13名、八尾・清水谷・東高校などにも多数合格者を出すことができました。受験生の皆さん、おめでとうございます。そして、受験生を支えた家族の皆様、本当にお疲れ様でした。ただ、正直に申し上げておきたいことは、合格された生徒達がいる一方で、不合格になった生徒達もいるということです。カイチの公立高校合格率は83%。残念ながら全員合格というわけにはいきませんでした。私の担当した今福教室でも、難関校や競争率の高い学校で不合格の生徒を出してしまいました。

毎日のように質問に来て、その度に、「先生、私合格できるかな?」と不安そうに聞いてくる生徒、プレテストの結果が伸びない不安の中、それでも負けずに毎日自習に来ていた生徒、努力に努力を重ねてようやく、念願の志望校受験の切符を手に入れた生徒もいました。どの生徒も本当によく頑張りました。勉強が好きな人は少ないはず。むしろ、嫌な勉強を、多くの生徒がクラブと両立しながら、定期テスト前には塾の自習室で缶詰になり、夏期講習では塾と学校の宿題に追われ、秋口のテストラッシュのストレスに耐え、時には逃げ出したくなったこともあるかもしれない。それでも、明るさを忘れず、秋以降は毎日のように、午後11時頃まで残り頑張りました。

全員合格させてあげたかった。君たちの努力に合格という実を結んであげたかった。

皆さんの力になれず申し訳ありませんでした。努力が報われず辛いかも知れない。努力しても無駄だったと思うかも知れない。それでも、どうか、顔を上げて力強く前に進んでください。

皆さんは、受験勉強を通じて自分と向きあい努力を重ねる中で、自分を高めることに対する静かな充実感を知ったのではないかと思います。

どうか、また新たな目標を持ち、一步を踏み出してください。貴方たちは可能性の塊です。その努力は必ず皆さんの将来に繋がりが、未来を作っていきます。どうか、努力し工夫を続けることを諦めないでください。偉そうなことを書いている私達も、道の途中です。良い塾、みんなの成績を伸ばし、一人一人の可能性を広げられる塾になれるよう努力と工夫を重ねていきたいと思います。未熟な私達ですが、どうぞこれからも宜しくお願いいたします。

…………… 4/28(土)教育講演会実施します ……………

子供が伸びる とっておきの秘訣 ～新しい受験に打ち勝つ「地力」の付け方～

講演者 開智総合学院塾長 高木秀章

大学入試制度が2020年に大改革しますが、実は高校入試は既に変化してしまいました。小学生のお子様をお持ちの保護者の方にとって、「そんな先のこと…」と思われるかも知れませんが、お子様が小学生の「今」だからこそ知っていただきたい、取り組んでいただきたいことがあります。講演会では実際の高校入試問題に触れながら(おそらくその変化に驚かれ意識が大きく変わります)、これらに対応できる学力の育み方や英語への取組みなどについて共に考えたいと思います。お気軽に、是非ご参加ください。

- 日時 4月28日(土) 10時30分～12時00分
- 場所 大阪市城東区民センター 4F 大会議室 (定員50名)
(大阪市営地下鉄長堀鶴見緑地線清生4丁目駅 ①7番出口徒歩5分)
- 対象 小学生のお子様をお持ちの保護者の方
※塾生の保護者の方でも構いません

Focus

CLASSROOM REPORT 教室レポート



可能生は無限大 みんなで、目標を持ち、努力をやり抜こう!

小幡 翔太郎 (関目教室)



こんにちは。今年度より関目教室長に就任いたしました。小幡翔太郎と申します。副教室長の井上先生、また福井先生、岡本先生をはじめとする頼りになるスタッフとともに関目教室を盛り立てていきますので、何卒よろしくお願いたします。

新年度がスタートして1か月、各学年で新しい仲間を迎え、どの授業も活気を帯びています。特に中3生は受験勉強がスタートし、「レベル別受験対策講座」も始まりました。この講座では、入試までに必要な勉強をリストアップしたものを進捗表として各自に配布し、講師が進捗管理を行います。「受験まで、1年もあるのに…」と思う生徒もいると思いますが、受験は時間との闘い。いかに早い時期から効率よく学習するかで、偏差値の伸びは全く違います。また、受験を通して身に付けた学習方法は必ず、大学受験や将来の仕事に役立ちます。

受験生のみならず、学校のクラブでも中心的役割になり、多忙で疲れもあるのですが、そんな姿を微塵も見せず、講座の中3生の様子は真剣そのものです。今年の関目生達はレベルが高く、センスのいい生徒達がたくさんいます。今年度は、多数のトップ校合格と志望校全員合格を目指し全力で指導していきます。

また、今年度はカイチ全校舎を挙げて英検取得に、力を入れています。

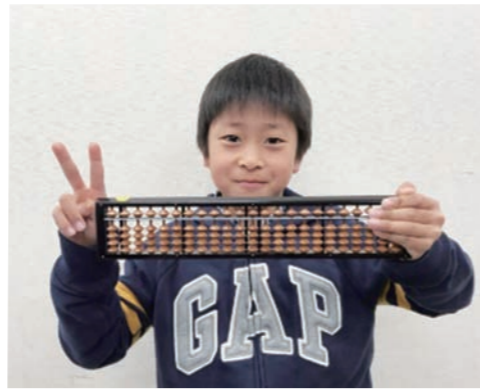
写真の2人は、それぞれ英検2級と英検準2級に、中2の冬で合格!

英検2級を取得していれば公立高校入試の英語で8割の得点が保証されますので、彼女達の一人は、すでに本番で8割以上の得点を保証されたこととなります。難化の進む公立高

校入試、また、将来の大学入試を考えても、英検取得は必須事項です。様々な習い事やクラブ活動で忙しいのは良く分かりますが、少しでも早く英検取得を目指した英語学習に取り組んで欲しいと思います。私も、小学生英語のトーキングキッズ担当で指導しています。トーキングキッズでは30分が私達塾講師の文法指導(自分で言うのも何ですがわかりやすいです)、残りの30分が外国人講師によるスピーキング・リスニング指導です。フィリピン研修に行き痛感したのですが、知っているのと使うのは全く違います。いくら、学校の授業で英文法を知っていても、使い慣れていなければ話せない。そのような意味ではトーキングキッズの指導は本当によくできています。6月には、英検があります。もちろん、受験者全員を合格させる気持ちで取り組みます。

珠算部にも新世代のエースが登場しています。

写真の森平君は、なんと小1で3級に満点合格!ご家庭でもお姉さん、お母さんと一緒にお稽古していたそうで、熱心な努力が実を結んだ結果の3級を



満点合格。

そろばんや英語においても低学年指導を担当し痛感することは、子供達の可能性を制限しているのは私達大人なのではないかと感じます。今年度の競技大会の読み上げ算、小3以上入賞者は全員が十京十口を正解できるそうです。今年1月の英検もわずか3カ月の指導で11人中10人が英検5・4級(中1・中2教科書レベル)に合格したそうです。子供達の可能生は無量大。子供達の可能生を信じ、スーパーキッズをどんどん生み出していきたいと思えます。

最後にぐんぐん伸びる子の共通点についてお伝えして私の記事を終わりたいと思います。それは、「明確な目標を持ち、それに向かって努力をやり抜いていることです。英検やそろばんの進級、定期テストや模擬試験、クラブでレギュラーになるなど、どんなことでもいいので、何か目標を決めそれに向けてどれだけ小さくても良いので努力を始めてみてください。私の目標と願いは、「生徒の皆に、社会で活躍できる立派な人になって、卒業してもらおうこと」。勉強だけでなく、考え方やマナーなど、生きていくうえで必要な「人間力」も身に付けてもらえるように、日々、真摯に指導していきたいと思えます。



Education

KAICHI'S ACTIVITY カイチの教育

早めのスタートが勝利のカギ ～2018年度 大阪府公立高等学校 入試問題の分析と対策～



坪田 陽一 (諸口教室)

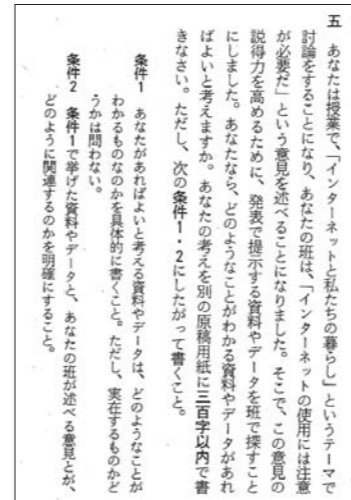
さる3月12日に行われた公立高校入学試験。問題を新聞紙上でご覧になった方も多いかと思います。今回の入試問題について、傾向の分析および対策について述べていきたいと思います。

<国語>

今回の入試問題も、形式としては現代文2題と古文漢文1題、漢字と作文が出題され、例年通りでした。B問題の現代文で哲学者による少々難しい文章が出題されましたが、他は適切なレベルだったと思います。

ただし、C問題では、例年の傾向から大きく変わり、古文ではなく漢文が出題されました。過去出題されていなかったのと、とまどった受験生が大多数ではないでしょうか。とはいえ、書き下し文も書かれているので、落ち着いて読めば、かえって古文よりも解きやすかったのではないかと思います。

また、作文も傾向を変えてきています。C問題では「インターネットの使用には注意が必要だ」という主張を裏付けるデータや資料を自分で例示し、それと主張との関連を述べるという問題。B問題では「インターネットの普及は私達に良い影響を与えているか」というテーマで意見を書くという問題でしたが、条件として「自分とは異なる立場の考えや、自分の意見に対する反論などを想定し、それについてもふれること」という、今までになかったものが加わりました。



▲発表に説得力を持たせるためにどのような資料やデータを準備するか。実社会でのプレゼンを意識したようなものが出題されました

<数学>

A,B問題は適切なレベルの問題でした。例年どおりの形式で出題されましたが、Bでは図形の問題で

求め方を記述する問題がなくなりました。大問1(計算や確率等)はミスや勘違いを誘うものも多く、正しい知識と正確な計算力が求められる問題でした。丁寧に勉強していた受験生なら全問正解が狙えたでしょう。大問2以降も文章題や図形の問題でしたが、全体的には例年よりも取り組みやすい問題だったと思います。

C問題は、解く生徒達の学力を考えると、易しい問題となりました。大問1ではC問題として初めて「資料の整理」の問題が出題されました。「間違っ作られた資料を与えられた条件下で正しいものに訂正する」という知識の活用を問う問題で、戸惑った受験生も少なくはないと思われます。大問2の平面図形はかなり易しくなりました。ただし、二等辺三角形の性質や中点連結定理といった基本事項に気付くことが前提です。大問3の空間図形も、必要な平面を取り出した後の計算過程が以前と比べてだいぶ易しくなり、時間内に正答に至った生徒も多いだろうと思われま。

<英語>

今年度は昨年度とほぼ同じ形式でした。ただしB,C問題の長文問題が難化しました。B問題では単語量が約100語増え、英作文も自由英作文から書く内容が決まっている条件英作文に変更となりました。ただ、他は大きな変化はありませんでした。

C問題では文法問題が正誤問題から整序問題に変更となり10題から5題に半減。その配点が各1点から各2点へ変更となりました。また、英作文は記述する内容が予め問題文に書かれており、書き方を考える必要がなくなりましたが、語数指定がなくなり、まとまった文章を書く必要がありました。リスニングについては、初年度が難しすぎたためか、易化傾向がみられましたが、それでも英検準2級程度のリスニング力が求められます。総じて言えば、「聞く力」「書く力」ともに相当高いレベルを要求されることは変わりません。公立上位校受験生は早い段階から対策を練り学習を進める必要があります。

<理科>

大問4問で、生物、地学、物理、化学のそれぞれで大問1つを構成しているのは昨年通りでした。ただ、小問数は昨年に比べ減少し、問題文も昨年よりは短く読みやすくなっています。

設問は基本的な語句や知識を問う問題から思考力を問う問題までバランスよく出題されています。昨年と比べると計算問題が減少(15問→5問)し、全体としては易しくなったという印象です。その一方で、ある事象の原因を考察し、記述する問題が増えました。また、受験生が初めて目にするような状況を設定

し、必要な情報を与えて設問を解かせる活用型問題の出題が続いており、今年は状態変化・気温・湿度に絡めた「素焼きの壺」の問題が出題されました。問われている知識は教科書レベルの内容ですが、複数の単元と絡めて出題されており、また与えられた情報から現象の因果関係を正しくとらえ、記述する力が問われています。

受験生の皆さんには、日々の授業の中で「なぜ」その現象が起こるのか、暗記ではなくきちんと理解するように努めてほしいと思います。

<社会>

昨年と比べ全体的に計算問題が減少し、一見易しくなったようにも見えますが、問題文の量が増加し、情報を正確に読み取る力が問われる問題となりました。選択問題も一つ一つの選択肢が長く、文末や数字の1桁台まできちんと読み取らなければ正誤の判断ができません。また、通常見かける図が逆に表示されていたり、複数回答を求める問題があったりと、ケアレスミスを誘う問題も多く、落ち着いて解かなければ大きく点数を落とす可能性があります。

問われている知識は教科書の範囲内ですので、とにかく教科書内容をすみずみまで学習しておくことが必要です。あとは正確な読解力と、割合や縮尺等の小学校レベルの計算力を身に付けておくことで十分高得点を狙える問題です。

<まとめ>

以上のように、科目ごとに難易度の変化はあったものの、形式としては大きく変わりませんでした。しかし、国語で過去出題されていない漢文が出題される等、直前に過去問で学習しただけでは対応しきれないことがあるのも事実です。また思考力を問う活用型の問題も年々増加しています。どんなに傾向や出題形式を変えられても慌てることのないよう、各科目の基本的な事柄はきちんと身に付けておく必要があります。

そのために受験生は「レベル別受験対策講座」等で、早くから受験勉強に取り組みましょう。得意科目であっても必ずどこかに弱点があります。一通り復習していくことで、その「穴を見つけ、一つ一つふさぐ作業をしていきましょう。苦手でなかなか手がつかない科目も、「千里の道も一歩から」です。まず基本的なことから取り組むことで、入試までに合格ラインには十分乗ります。

また、中学1・2年生も、受験生になってから慌てることのないように、今塾や学校で受けている授業を大事にしてください。公立入試問題は、全て教科書の範囲から出題されています。少しでも疑問点があれば調べたり質問したりしてすぐに解決していきましょう。